

津堂城山古墳(藤井寺市)

東側から見た津堂城山古墳の全景/左が前方部、右奥は後円部

 [video](#)



「史跡 城山古墳 花しょうぶ園」とある



そこで、左手に前方部前面の周濠(内濠)を見たところ



同じく、右手に前方部から後円部方向に周濠(内濠)を見たところ



北東側から墳丘全体を見たところ/左手が前方部、右手は後円部



前方が括れ部辺り

[video](#)



左手の前方部



右手の後円部





つどうしろやまこふん 津堂城山古墳

津堂城山古墳 쓰도시로야마 고분

Tsудо-shiroyama Kofun



1987年撮影



時代 古墳時代 中期前葉

国史跡 1958年1月21日指定

古墳の形 前方後円墳

藤井寺市津堂

墳丘の全長 210m

出土したもの 円筒埴輪、水鳥形埴輪【重要文化財】、銅鏡（鏡）、刀剣、勾玉、木製品など

ふるいちこふんぐん

古市古墳群内で最古の巨大古墳で、古市古墳群の最北端に位置しています。明治45年には後円部で竪穴式石槨が発見され、そこから巨大な長持形石棺が発掘されました。この古墳の最大の特徴は、墳丘に二重の濠と堤をめぐらせていることです。くびれ部には造出しが付けられています。東側内濠には3体の水鳥形埴輪を配した島状遺構も見つかっています。

Tsудо-shiroyama Kofun (Tsудо-Shiroyama Mounded Tomb)

Period: Early-Middle Kofun Period
Mounded tomb shape: Keyhole Kofun

Total Length of the mound: 210 m

Excavated artifacts: Cylindrical haniwa (earthenware funerary figure), waterfowl-shaped haniwa, bronze mirror, blades, comma-shaped bead, etc.

詳しい情報が取得できます
For detailed information,
please check



Located in the northernmost tip of the Furuichi Mounded Tomb Group, this is the oldest extra-large mounded tomb in the group. An extra-large, chest-shaped stone coffin (kingly coffin) has been discovered. In addition, three waterfowl-shaped haniwa (earthenware funerary figures) in the size of an actual whistling swan have been discovered, and they have been designated as national important cultural properties.



長持形石棺
【大阪府『大阪府史跡名勝天然記念物調査報告』第五輯（1934年）より転載】



石棺内の朱【宮内庁】



竪穴式石槨の天井石



藤井寺市
Fujiidera city
令和6年3月

WELCOME TO FURUICHI-KOFUNGUN

周濠(内濠)が後円部を回り込んでいる

[video](#)



そこで、振り返って前方部方向を見たところ



後円部を後ろから見たところ

 [video](#)



そこで、左手を見たところ



同じく、右手を見たところ



右手に進むと、後円部の裾に神社の玉垣が見えて来た

[video](#)



そこで、左手を見たところ



ここが周濠を渡る神社への土橋

[video](#)



「史跡 城山古墳」と刻まれた標柱が立っていた



土橋から左手を見たところ

 video



同じく、右手を見たところ



ここは津堂八幡神社





津堂八幡神社由緒略記

御祭神

本殿には、品陀別命（ホムダワケノミコト＝応神天皇）右側の小宮には、津堂稻荷神社祭神＝稻倉魂命（ウガノミタマノミコト）を祭祀している。

緣起由來

津堂八幡神社縁起石田家蔵によると、「河内の国丹北郡津堂の邑氏の神正八幡宮は往古数百年を経て古へは杜社にて三好山城の守所願所にて神意を教多事とへ祭礼し」とあり、また杜地にについては「若石地今の日ごと日あり 六西北に在に宝水川中歳大和川の流れ達て」と（大和川の付替へに）土地湿しに享保元年六月廿日洪水此川溢れて流れて、
既既に危なかりける故、享保に庚午春三月此のことを上とに達し今この地（現在のところ）に社を遷し奉る。又、前記より、津堂八幡神社は、鎌倉末期の元弘か建武年間（一三三一—一三五）に小川の深居神社から分祀、小字名を辿ると現在の津堂地から元シャイブの工場（現在津堂ウツク）の付近に遷され、品陀神社は、品陀別名（応神天皇）を祀られた。この神社は、津堂、小川
深居神社は、奈良時代の養老元年（七一七）の創建と伝え、品陀別名（応神天皇）を祀られた。この神社は、津堂、小川

若林、大堀、川辺の恵我五か村の産土神社であつた。建武の兵乱により焼失、その後各村に分祀される。

源氏の末裔で、室町時代可成の国守權威になった、也。三好氏は、永祿九年十一月二十三日（一五六六）三好山城守入道笑若康長が当八幡神社を祈願所として勧請された。（三好氏は、信濃

享保元年(申の歲)六月二〇日新大和川氾濫により社殿浸水崩壊する。

享保五年（庚子の歲）三月 城山古墳の後円部頂西端（現在の社地）に遷される。

明治四二年一月 神社合祀例發布（郡村編成替により丹北郡津堂村→志紀小山村大字津堂一村一社）により産土神社に合祀される
明治四五年 当地に記念碑（喬神土遺跡）建立

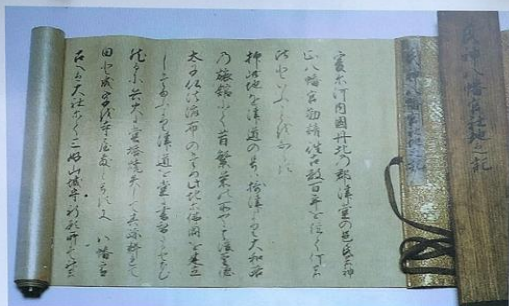
昭和二五年
現在の土地に復元遷宮する。

昭和六一年一〇月七日 宗教法人津堂八幡神社を設立する

以上のとおり津堂八幡神社は、六七〇年の歴史を持つことになる。

由緒書き

※津堂邑・八幡神社社地の記



※津堂村の古図（藤井寺市史より）



津堂稻荷社

稻倉魂命（ウガノミタマノミコト）を祭神としてまつられている。

稲倉魂命は神代に登場する神で、日本書紀で表記されている「ウカ」とは穀物・食物の意味で五穀の神である。現在、稲倉の神・商工業の神・家内安全を祈願する神として広く信仰されている。古記事では、スサノオ尊とオオイ

千大神の間に生まれた姫とされている。当社では、四月第二日曜日に花鎮め祭で無病息災を祈願している。

津堂の由来

河内國の田代郡津堂邑には「集う八幡宮杜社地記(石田家藏書)」に「此處を津堂と号し、大和路にありて旅館などあり普賢堂の所なりと其の後世に成 字を寺屋敷と号す」との地令の所より六丁西北に在る宝水元中藏大和川の兵大寺と云ふ昔荒し其の跡耕せりと成 字を寺屋敷と号す」との地令の所より六丁西北に在る宝水元中藏大和川の流れを述べて土地湿しに享保元年申、六月廿日此川堤に溢れて危なりける故享保五庚子春三月此事を上に達令の抄に「とあること知らし、津堂村は、現在の藤井寺高等学校付近、津堂を共同墓地周辺にあつたものである。宝水元年に大和川の川が替へて以来、津堂の村は度々洪水に遭ひてその被害は甚大なものであつたのである。

このことが幕府の知ることとなり、時に享保改革の新田開発が進められていたこともあって、荒廢した城跡地（現在のところ）に大移住となった。「津堂」の地名は「津の道」所謂、

大和の都から住吉の津(港)に通ずることから「津堂」の号とさ



石の柳

葛氏・船氏が河内の志紀周辺に移住してきたと伝えられている。

(建立)



古墳の石垣

津氏は水・測量・土木の技術を持って志紀、恵我長野地域（津堂）に定住した。津堂は当

（周辺）に勢力を広めていたようであった。その頃に聖徳太子が仏教を日本に伝へた。聖徳太子が招いたもので、明治4年（1871年）に、

同族である津氏の支援を得て津堂の地に仏閣を建立された。堂塔碑

が建立されて以来「津道」を「津堂」に改められたと伝えられている。

戦火で焼失した堂塔の礎石の一個が、現在玉垣に並ぶ建立碑の
※神社

●八幡

台石としている。

※神社跡の碑（明治45年建立）



●八幡神社遺跡の碑は当古墳の石槨の蓋石を使用していたため平成23年4月文化財保護のため返還した。

古墳の裾に鎮座している





これは南西側の後円部よりから見たところ/左手が後円部、右手は前方部

 [video](#)



そこで、左手を見たところ



同じく、右手を見たところ



これは南西側の前方部よりから見たところ/左手が後円部、右手は前方部

[video](#)



そこで、右手を見たところ



同じく、左手を見たところ



南側から津堂城山古墳の全景を見たところ/右手が前方部、左奥は後円部



墳丘をアップで見たところ/木が多過ぎて墳丘ラインが今一良く見えない

[video](#)



前方部を後ろから見たところ

[video](#)



正面が前方部の裾



前方部の先端に登って後円部方向を見たところ/木が多過ぎて後円部の墳丘が見えない

[video](#)



そこで、振り返って前方部の先端を見たところ

 video



少し進んで、前方部から後円部方向を見たところ

 video



そこで、左手を見たところ



同じく、右手を見たところ



同じく、振り返って前方部先端方向を見たところ



括れ部辺りから後円部方向を見たところ

[video](#)



同じく、前方部方向を見たところ



正面が後円部/鉄柵で囲まれている

 video



鉄柵に沿って、右手に後円部墳頂に登って来たところ



その先は急峻な斜面となっていた/前方は後円部の後ろ側

 [video](#)



左手の鉄柵にはこんな看板が・・・

 video



鉄柵内の墳丘の様子

 video



墳丘を南西側の下りて、括れ部辺りを見たところ

[video](#)



そこで、右手(前方部方向)を見たところ



同じく、左手(後円部方向)を見たところ/左端に津堂八幡神社の玉垣が見える



同じく、振り返って周濠を見たところ



これは前方部の墳丘先端を南西側から見上げたところ

 video



こちらは北東側の周濠内で括れ部辺りを見たところ

 [video](#)



そこで、右手(後円部方向)を見たところ



その更に右手を見たところ



同じく、左手(前方部方向)を見たところ



その更に左手を見たところ



その辺りにも「史跡 城山古墳」と刻まれた標柱が立っていた

 [video](#)



さて、これは津堂城山古墳の北側に所在する「史跡城山古墳ガイダンス棟(まほらしろやま)」の入口に展示されている長持形石棺など

 [video](#)



これが津堂城山古墳の後円部墳頂から出土した、大王の棺とされる長持形石棺(レプリカ)



手前は縦穴式石槨の天井石





つ どうしろやま こ ぶんしゅつどながもちがたせっかん 津堂城山古墳出土長持形石棺

Replica of the stone coffin at Tsudo-siroyama Kofun



調査風景写真 Investigation of the stone coffin
(大阪府教育委員会 Osaka Prefectural Board of Education)

この石棺は、津堂城山古墳の後円部頂に埋設されていた長持形石棺の実物大のレプリカです。6枚の板石を組み合わせてつくられ、蓋石上面には、格子状の彫り込みがあります。また蓋石、側石、底石には縄掛け突起が、小口石には方形突起が付加されています。この巨大で精巧かつ装飾性豊かな長持形石棺は、古墳時代中期の大型前方後円墳に採用された棺の典型例と考えられています。

石棺の復元にあたっては、梅原末治・坪井正五郎先生が残された図面や報告文、及び明治末（1912）年の発掘時撮影の写真を参考にしました。石材には兵庫県高砂市産の竜山石を使用しています。なお石棺は後円部の埋葬施設に設置された段階で赤色顔料で全体を彩色されたと推定されますが、その工程は省きました。

The burial facility, which was discovered at the upper part of the round rear part in 1912, is a pit-style stone compartment containing the largest chest-shaped stone coffin ever discovered in Japan. The ceiling stones of the chamber were removed at the time of discovery; they are currently displayed in the guidance facility.



竪穴式石槨と長持形石棺模式図
Pit-style stone compartment and oblong chest-shaped stone coffin

石棺の大きさ Size of the stone coffin

(突起部を除く / Size except the tang)

長さ <length> 348cm

幅 <width> 168cm

高さ <height> 188cm

厚み <thickness> (中央部 / Central part of the slate) と重さ <weight>

蓋石 <Cover stone> 38cm about 4ton

側石 <Base stone> 26cm about 2ton × 2pieces

小口石 <End boards> 18cm about 1ton × 2pieces

底石 <Bottom stone> 50cm about 6ton

計 <total> about 16ton

詳しい情報が取得できます
For detailed information,
please check



Foreign Languages



藤井寺ライオンズクラブ
CN50 周年記念
2018 年 12 月寄贈

WELCOME TO FURUICHI-KOFUNGUN









棟内には様々な展示がされていた

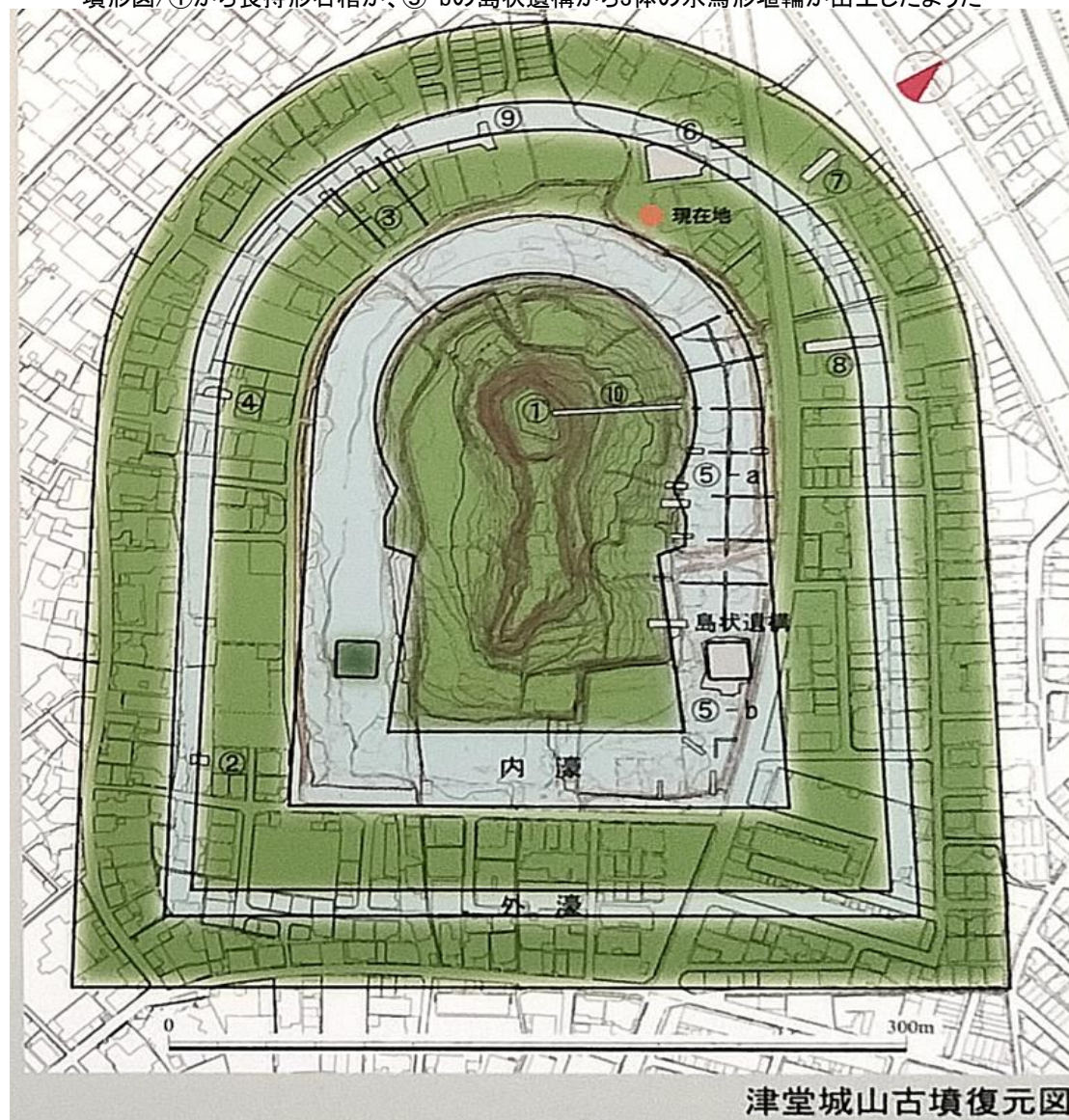


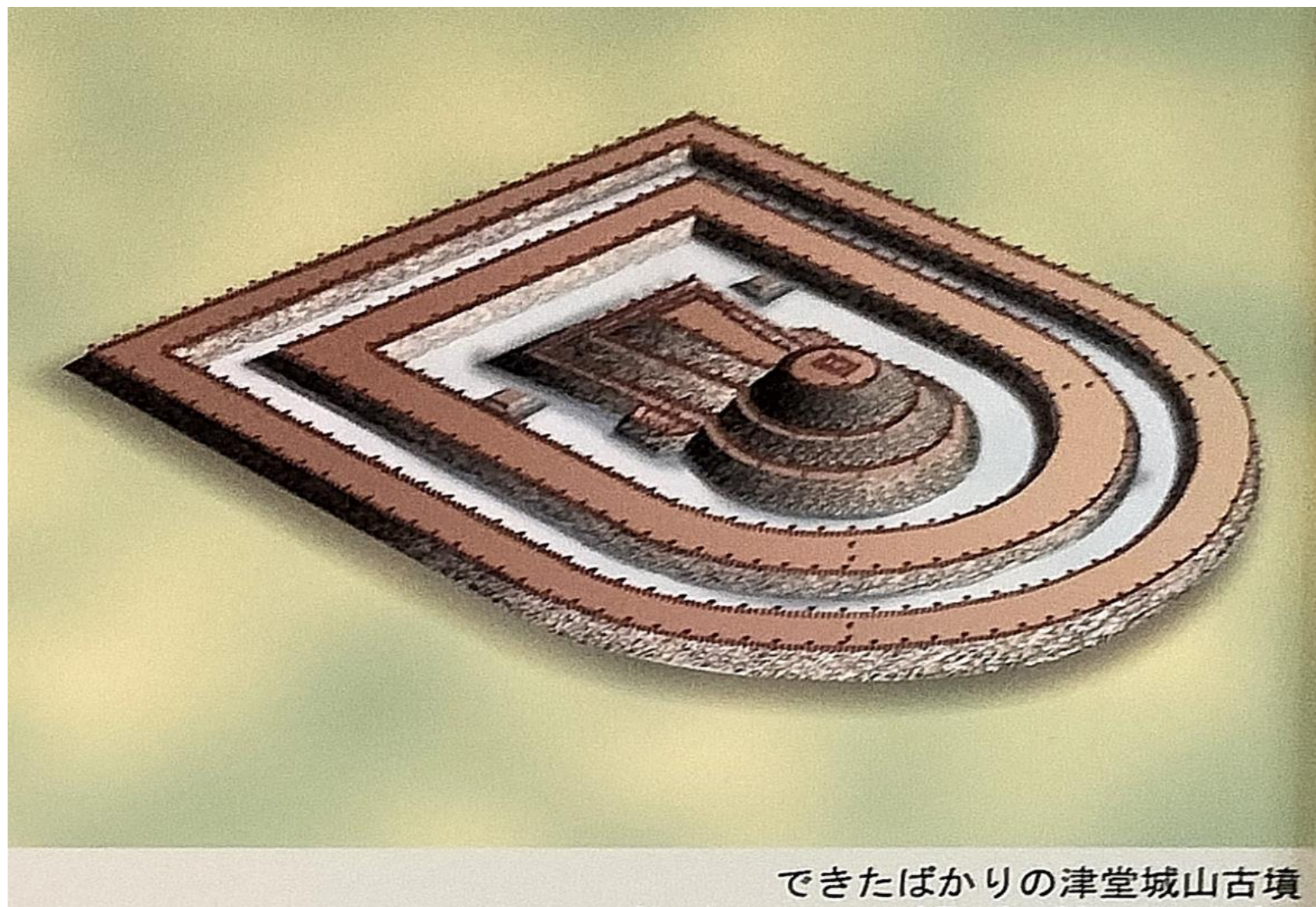
内濠の外側は市街化されているが、その雰囲気は残っているようだ



空から見た津堂城山古墳（2014 年撮影）
Seen from the sky congregate Tsudo-shiroyama kofun

墳形図/①から長持形石棺が、⑤-bの島状遺構から3体の水鳥形埴輪が出土したようだ





できたばかりの津堂城山古墳



津堂城山古墳をつくる

Construction of Tsudo-shiroyama kofun

津堂城山古墳は、4世紀後半、古市古墳群の中で最初につくられた大型の前方後円墳です。墳丘の長さは210メートルで、二重の濠と堤がめぐる雄大な姿をしています。古市古墳群では6番目の大きさです。墳丘と堤の斜面には石が葺かれていました。平坦面には円筒埴輪やさまざまな形象埴輪が立て並べられ、見る人々にいっそうの威圧感を与えていました。内濠の中には、方墳状の特殊な施設が、前方部側の北東と南西の対称的な位置にあります。発掘調査が行われた北東のものには、3体の水鳥形埴輪が据えられていました。後円部の中心には、巨大な長持形石棺が納められ、そのまわりを板石積みみの竪穴式石槨で厳重に保護していました。また、石棺の内外には、さまざまな副葬品が入れられていました。こうした規模や内容から、この古墳は当時の社会で大きな権力を持っていた人物の墓であると考えられることができます。このような巨大な前方後円墳をつくるには、当時の最新の技術を使った、大規模な土木工事が必要でした。多くの人々が、濠を掘ったり、埴輪を作ったりといった、さまざまな労働に従事させられました。人々は、完成した古墳を権威の象徴としてながめたことでしょう。



津堂城山古墳の 竪穴式石槨の天井石

ガイダンス棟前に展示している大きな石は、津堂城山古墳の後円部に埋められていた長持形石棺ながもちがたせつかんの上部をおおっていた竪穴式石槨たてあなしきせつかくの天井石てんじょういしです。石棺と天井石は、兵庫県加古川下流域に産する竜山石たつやまいしでつくられています。

今から約100年前の明治45（1912）年、津堂城山古墳の後円部から石棺がみつかりました。石棺のまわりに板石いたいしを積み上げ、上部を7枚の天井石でおおっていました。この石棺を保護する施設を竪穴式石槨と呼んでいます。これらの天井石は津堂城山古墳から持ち出され、市内の各所で転用されていました。そのうちの1枚が後円



出土した石棺と天井石
(石棺の向こうに竪穴式石槨の板石積みの壁と大きな天井石が写っています)
[大阪府教育委員会]

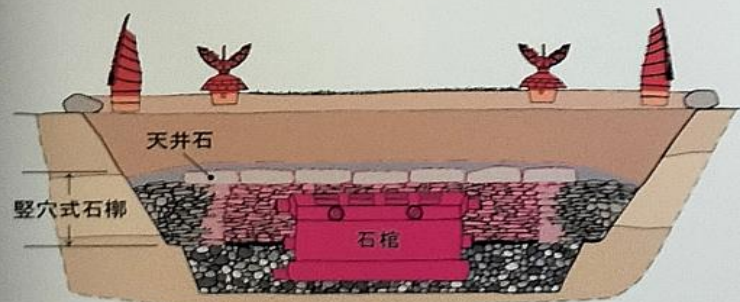
堅穴式石槨の天井石が津堂八幡神社の石碑に転用されていたという

部西側の津堂^{はちまんじんじゃ}八幡神社^{せきひ}の石碑となっていました。

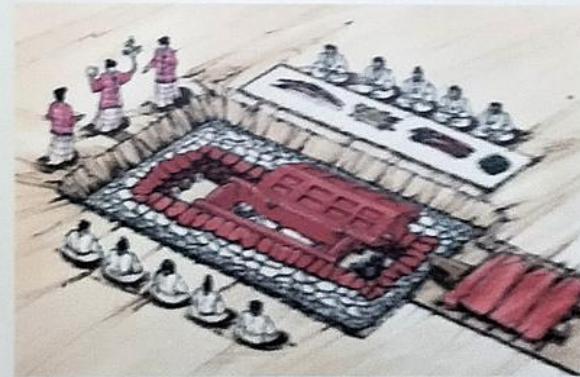
この石碑は、最近^{いた}傷みがひどくなっていました。津堂地区では、天井石の文化財としての重要性を考え、藤井寺市教育委員会と協議し、朝日新聞文化財団の助成をえて、天井石の保存強化処理をすることにしました。処理の終わった天井石は、石碑周辺にあった破片と津堂地区の民家に保管されていた天井石をあわせて展示しています。



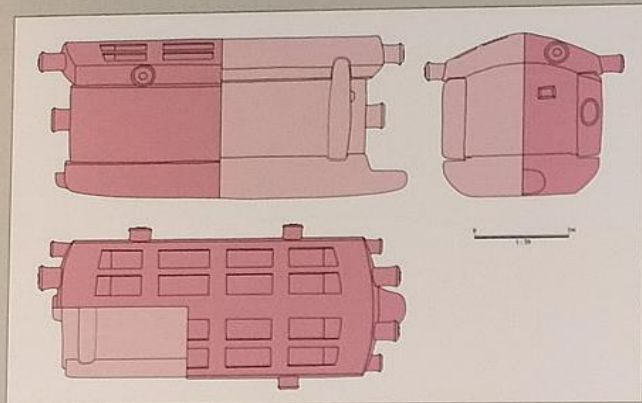
石碑に転用されていた天井石



巨大古墳上での葬儀の想像図



巨大古墳上での葬儀の想像図



長持形石棺復元図

(梅原末治「河内國の小山城山城山古墳調査報告」より一部改変)
Reconstructed image of chest-shaped stone coffin



坪井正五郎による調査（1912年）[大阪府教育委員会提供]
Investigation in 1912 by Shogoro Tsuboi
(provided by Osaka Prefecture Board of Education)

長持形石棺と副葬品

Chest-shaped stone coffin and burial goods

後円部に納められた長持形石棺は、その
巨大さと精巧さで、まさに王者の棺とし
てふさわしいものです。

石棺の内外に入れられていた副葬品は、



巴形銅器
Comma-shaped bronze wares



各種石製品と滑石製模造品
Various stone objects



変形龍虎鏡
Mirror variation with relief engraving dragon and tiger
Mirror with half-raised edge and relief engraving of two deities and four animals



半三角縁二神四獣鏡
Mirror with half-raised edge and relief engraving of two deities and four animals

8面以上の鏡、^{こうぎよくせいたまるい}硬玉製玉類、^{せきせいわんしよくるい}石製腕飾類、
^{ともえがたどうき}巴形銅器などの銅製品、^{さんかくいたかわとししきたん}三角板革綴式短
^{こう}甲、^{かっせきせい}滑石製模造品、^もなどがありました。
^{そうひん}

(副葬品の写真はいずれも宮内庁提供)

With its hugeness and sophistication, the chest-shaped stone coffin kept in the round rare part is indeed worthy of a king's coffin. Burial goods placed inside and outside the stone coffin include: eight-or-more-sided mirror; jadeite gems; arm adornments made of stone; comma-shaped bronze wares and other copperwares; triangular, leather-bound, short metal body armor; imitations made of stone; and gilt bronze products.

(All photographs of burial goods are provided by the Imperial Household Agency.)



方墳状施設（1983 年発掘）
大きさは一辺 17 メートル、高さ 1.5 メートル
Square-kofun-shaped facility (excavated in 1983)
It is 17 meters on each side and 1.5 meters in height.



方墳状の施設と水鳥形埴輪

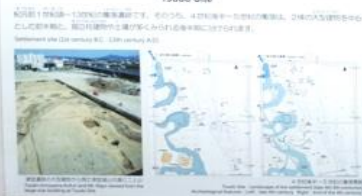
Facility in the form of a square kofun and waterfowl-shaped haniwa

北東側内濠^{うちぼり}の中の方墳状^{ほうふんじょう}の特殊な施設に据えられていた3体の水鳥形埴輪は、現在知られている中で最古のものです。大きいものは高さ1メートルを超え、知られている中で最大です。モデルは、コハクチョウであろうと考えられています。きわめて写実的で、その造形には目を見張るものがあります。南西側内濠の中の対称的な位置にある方墳状の施設は、地中レーダー^{たんち}などの探査でその存在がわかっていますが、発掘調査は行われていません。

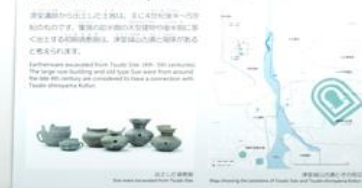
Three waterfowl-shaped haniwa fixed in a square-kofun-shaped, special facility in the inner moat on the northeast side are the oldest of those currently known. Furthermore, the large one is over one meter tall and the largest of those currently known. It is believed that the waterfowl-shaped haniwa were modeled after whistling swans. They are extremely true to nature and their formative designs are eye-opening. Meanwhile, another square-kofun-shaped facility in the inner moat that is in a symmetrical position on the southwest side has not been excavated, although its location has been found by scientific, ground-penetrating radar survey.



津堂遺跡
Tsudo Site



津堂遺跡と津堂城山古墳
Tsudo Site and Tsudo-shiroyama Kofun



津堂城山古墳出土の石製土器
Stone bronzes (copied)



津堂遺跡

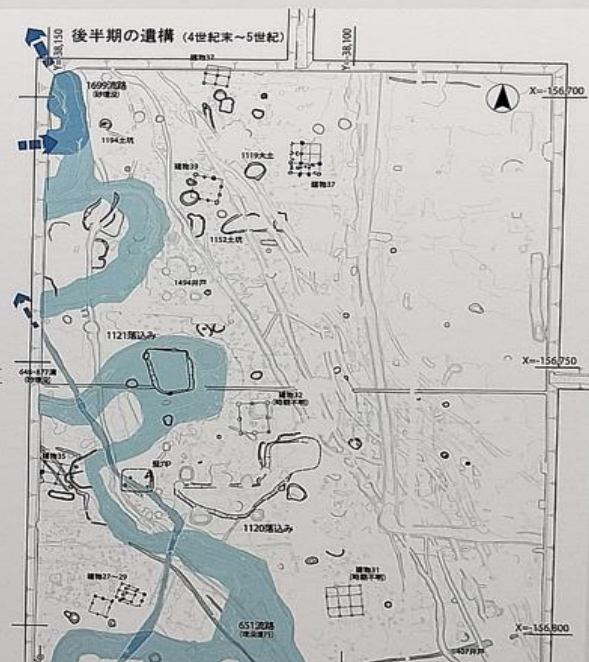
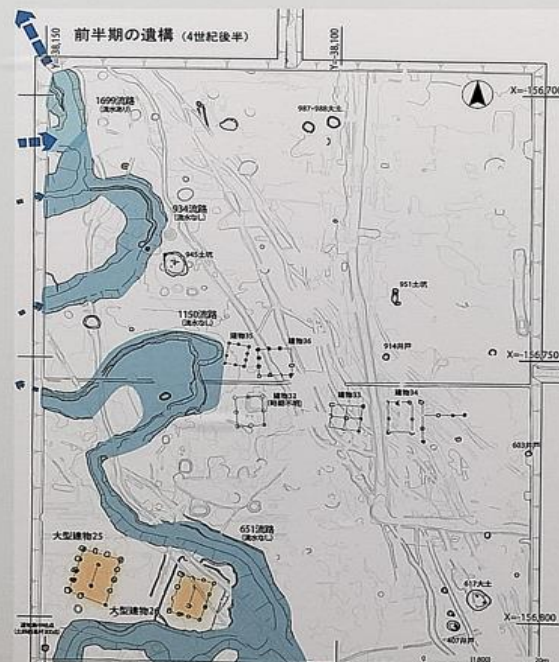
Tsudo Site

紀元前1世紀頃～13世紀の集落遺跡です。そのうち、4世紀後半～5世紀の集落は、^{おのがたてもの}2棟の大型建物を中心とした前半期と、^{ほったてばしらたてもの}掘立柱建物や土壌が多くみられる後半期に分けられます。

Settlement site (1st century B.C. -13th century A.D)



津堂遺跡の大型建物から見た津堂城山古墳と二上山
Tsudo-shiroyama Kofun and Mt. Nijyo viewed from the large-size building at Tsudo Site



4 世紀後半～5 世紀の集落景観
Tsudo Site Landscape of the settlement (late 4th-5th centuries)
Archeological features (Left : late 4th century Right : end of the 4th century)

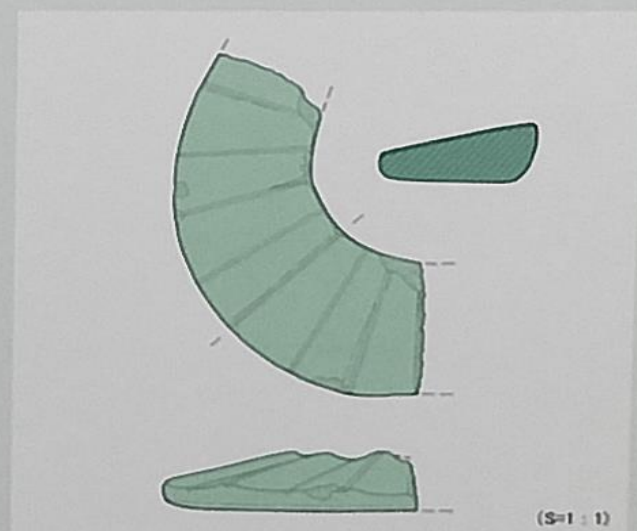
津堂城山古墳出土の石製腕飾類

Stone bracelets (replica)

津堂城山古墳からは、石製腕飾類が出土しています。展示品は、津堂城山古墳出土品と同型同大と考えられる茶臼塚古墳（柏原市）出土の複製品です。

Stone bracelets were unearthed from Tsudo-shiroyama Kofun.

They are figures unearthed from Chausuzuka Kofun (Kashiwara city), and this type is almost the same as Tsudo-shiroyama Kofun.



津堂城山古墳出土の石製腕飾類実測図

津堂遺跡と津堂城山古墳

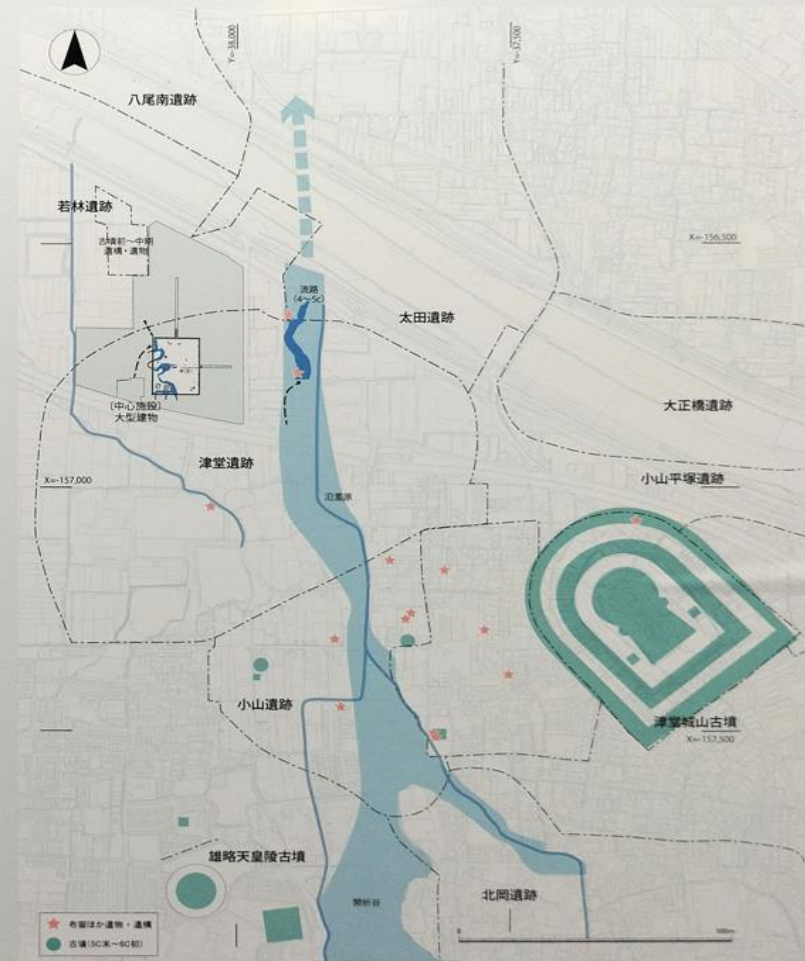
Tsudo Site and Tsudo-shiroyama Kofun

津堂遺跡から出土した土器は、主に4世紀後半～5世紀のものです。集落の前半期の大型建物や後半期に多く出土する初期須恵器は、津堂城山古墳と関係があると考えられます。

Earthenware excavated from Tsudo Site. (4th -5th centuries)
The large-size building and old type Sue ware from around the late 4th century are considered to have a connection with Tsudo-shiroyama Kofun.



出土した須恵器
Sue ware excavated from Tsudo Site



津堂城山古墳とその周辺
Map showing the positions of Tsudo Site and Tsudo-shiroyama Kofun

須恵器
 Sue ware
 津塚遺跡
 Tsuchi Site
 4世紀後半～5世紀
 Late 4th - 5th centuries

二重口縁甕
 Double rim jar
 二重口縁甕
 Double rim jar
 二重口縁甕
 Double rim jar

把手付碗
 Bowl with handle
 把手付碗
 Bowl with handle
 把手付碗
 Bowl with handle

小型丸底甕
 Small round bottom pot
 小型丸底甕
 Small round bottom pot
 小型丸底甕
 Small round bottom pot

高坏
 Pedestaled bowl
 高坏
 Pedestaled bowl
 高坏
 Pedestaled bowl

土師器
 Haji ware
 津塚遺跡
 Tsuchi Site
 4世紀後半～5世紀
 Late 4th - 5th centuries

右手前は津堂城山古墳から出土した4世紀後半の刀子形石製品



津堂城山古墳から出土した4世紀後半の衝立形埴輪





さて、ここで津堂城山古墳の被葬者に迫ってみよう！

大東文化大学オープンカレッジ 平成30年春「百舌鳥・古市古墳群の形成」講座資料より

3 古市・百舌鳥古墳群の形成

古市古墳群の主要古墳を前方後円墳集成編年表に基づいてあげると以下のようになる。

4期 津堂城山(●208) 古室山(●150) ニツ塚(●110) 盾塚(◎64) 岡(□33)

5期 仲津山〔仲姫皇后陵〕(●290) 墓山(●225) 野中宮山(●154) 大鳥塚(●110) 高塚山(□50)

6期 誉田山〔応神天皇陵〕(●425) はざみ山(●103) 青山(◎73) 鞍塚(○39) アリ山(□45)

珠金山(□28)

7期 市野山〔允恭天皇陵〕(●230) 軽里大塚〔日本武尊陵〕(●190) 黒姫山(●116) 唐櫃山(◎53)
長持山(○40) 藤の森(○22) 野中(□34)

8期 岡ミサンザイ〔仲哀天皇陵〕(●242) 峯が塚(●98) 高屋八幡塚〔春日山田皇女陵〕(●85)
鉢塚(●60) 蕃上山(◎53) 矢倉(◎30) 青山2号(◎33)

9期 河内大塚山(●335) 野中ボケ山〔仁賢天皇陵〕(●122) 高屋築山〔安閑天皇陵〕(●122)
白髪山〔清寧天皇陵〕(●115) 小白髪山(●46)

前方後円墳集成の編年表は、川西編年Ⅱ期の埴輪を持つ古墳を期と4期に細分しているが編年指標に錯誤があり、廣瀬 覚氏のⅡ期を細分した編年に比べると津堂城山古墳の細かい時期などを把握しにくい、まず5期からより大きい古墳が築造されたことを読みとることができる。表なので巨大古墳の周囲に(陪家)と呼ばれるような帆立貝形古墳(◎)、円

墳(○)、方墳(□)が形成されたことは判りにくい¹が、王権を構成する人達の階層構造が垣間見られる。おそらく、方墳の被葬者には渡来系の人が含まれていたと推察される。また、100m級前方後円墳の被葬者には宋書に記された郡号を与えられたもの、200m以上の前方後円墳の被葬者には倭王、倭隋のように將軍号を与えられたものが想定される。古市古墳群には、10期の前方後円墳が認められないが、後述するように9期に前方後円墳が形成されなくなる百舌鳥古墳群に比べて、遅くまで前方後円墳が形成されていた。その違いを見るために、百舌鳥古墳群の主要古墳を前方後円墳集成編年表に基づいてあげることにしよう。

4期 乳の岡(●155)

5期 石津丘〔履中天皇陵〕(●360) 百舌鳥大塚山(●159)

6期 いたすけ(●146)

7期 大山〔仁徳天皇陵〕(●486) 土師ニサンザイ(●290) 御廟山(●186)

田出井山〔反正天皇陵〕(●148) 永山(●104) 長塚(●100) 丸保山(◎87) 城の山(●77)

定の山(◎74) 銭塚(◎70) 竜佐山(◎67) 収塚(◎65) 旗塚(◎56) 文殊塚(●53)

こうじ山(◎51)

8期

9期 平井塚(●58)

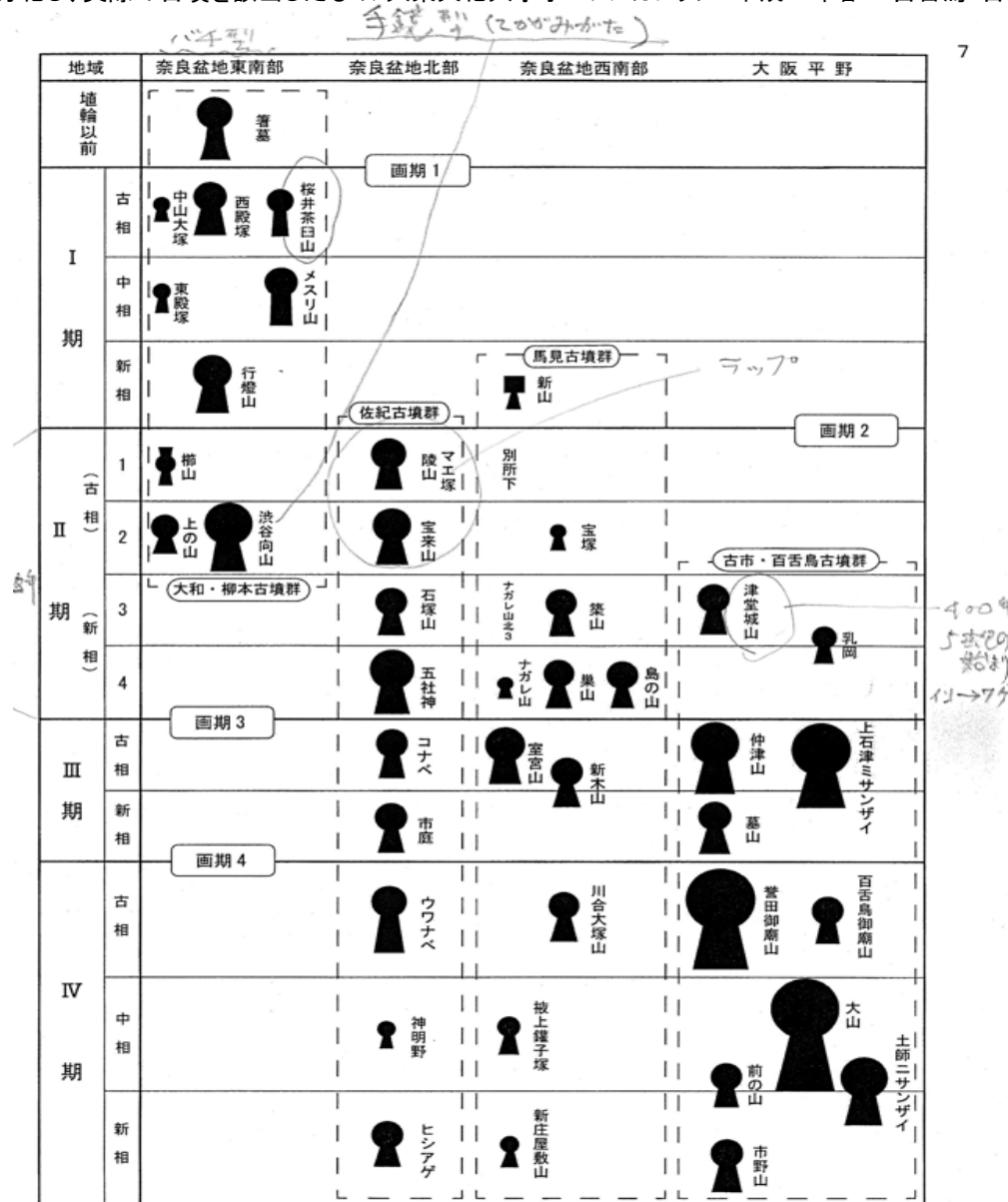
まず、廣瀬氏の円筒埴輪編年でみたように百舌鳥古墳群で4期となる乳の岡古墳は、円筒埴輪が2期3～4に移行する時期のものであり、津堂城山古墳よりも若干新しく、規模も小さい。5期の石津丘古墳は、これまで造営された前方後円墳中で最大規模を誇り、王墓であるのは確実である。6期に形成されたいいたすけ古墳は200mに達せず、王墓とすることは出来ない。この時期の王墓は、古市古墳群に形成された誉田山古墳であり、5期の石津丘古墳よりも規模が大きい。7期に百舌鳥古墳群に形成された大山古墳は、誉田山古墳よりも墳長が長く、王墓と捉えるのが妥当である。このように古市古墳群と百舌鳥古墳群には、王墓が交互に形成されていたが、同じ7期でも大山古墳より新しくて、規模の小さい土師ニサンザイ古墳が継続して百舌鳥古墳群に形成される。そして、8期最大の岡ミサンザイ古墳が形成されたのは、古市古墳群である。8期最大の岡ミサンザイ古墳を王墓と捉えたと、それとほぼ同じ墳長の土師ニサンザイ古墳も王墓になるだろう。王墓の規模が時代と共に大きくなる流れは、土師ニサンザイ古墳で止まったことになる。

百舌鳥古墳群では、6期・7期に60mを前後する帆立貝形古墳も多く形成されたが、8期にはそうした規模の古墳も形成されず、巨大古墳の造営は収束する。

このように古市古墳群と百舌鳥古墳群には、巨大古墳が交互に形成されており、造墓主体は同じであったと捉えるのが妥当である。こうしたことから巨大古墳の造営は、被葬者が生前から計画的に進めていたと考えられる。しかし、巨大古墳を交互に造営する原則が

津堂城山古墳は4期に位置付けられている

円筒埴輪の編年から前期・中期を更に細分化し、実際の古墳を該当したもの/大東文化大学オープンカレッジ 平成30年春「百舌鳥・古市古墳群の形成」講座資料より



王権中枢部大型古墳群の消長と埴輪編年の画期
廣瀬 覚『古代王権の形成と埴輪生産』より

古市・百舌鳥古墳群の部分の拡大図

期 (新相)		古市・百舌鳥古墳群		
		大和・柳本古墳群	石塚山	築山
3			ナガレ山北3	津堂城山
4			五社神	乳岡
		画期 3	ナガレ山	巢山
			島山	
III 期	古相		コナベ	室宮山
	新相		市庭	新木山
		画期 4		仲津山
				墓山
IV 期	古相		ウワナベ	川合大塚山
	中相		神明野	披上鑑子塚
	新相		ヒシアゲ	新庄屋敷山
				誉田御廟山
				百舌鳥御廟山
				大山
				土師ニサンザイ
				前の山
				市野山

400年
5世紀の
始まり
イ→7ヶ

ところで、倭の五王はそれぞれ誰であろうか？

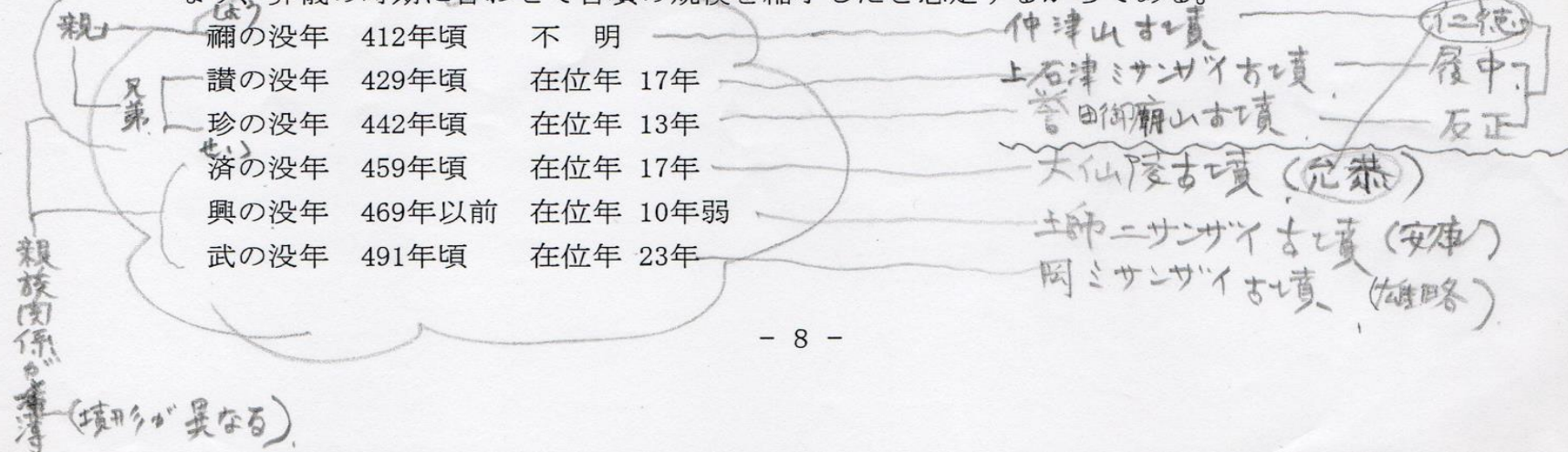
大東文化大学オープンカレッジ 平成30年春「百舌鳥・古市古墳群の形成」講座資料より

ここでは、藤間生大『倭の五王』岩波新書から五王の即位年等を引用し、巨大古墳と倭五王の対応関係を示す作業を行うことにする。

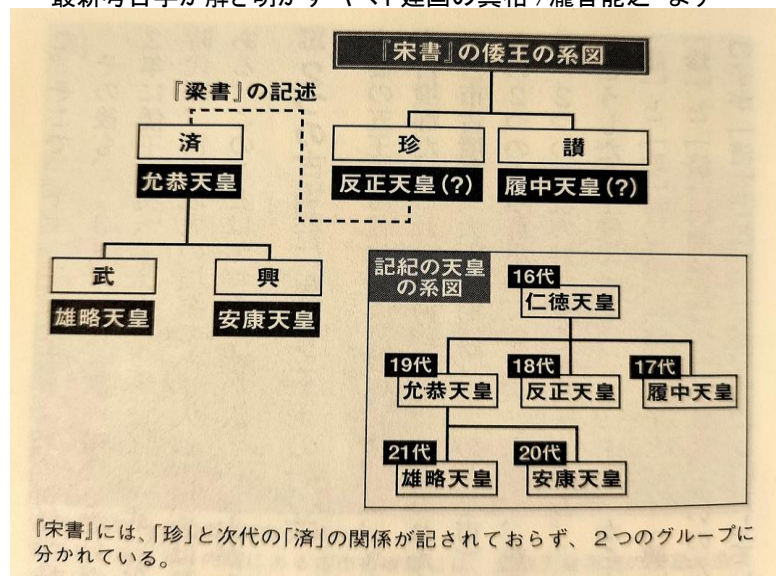
- ① 413年 義熙九年 倭国方物を献ず。(晋書安帝紀)
- ② 421年 永初二年 倭讃に除授。(宋書倭国伝)
- ③ 425年 元嘉二年 讃又、司馬曹達を遣わし方物を献ず。(宋書倭国伝)
- ④ 430年 元嘉七年 倭国王、使いを遣わして方物を献ず。(宋書文帝紀)
- ⑤ 不 明 讃死して弟珍立つ。使いを遣わし貢献。自ら使持節都督倭・百濟・新羅・任那・加羅・秦韓・慕韓六国諸軍事・安東大將軍・倭国王を称し、安東將軍・倭国王に除せられる。また、倭隋等十三人に平西・征虜・冠軍・輔国將軍号を求め、許される。(宋書倭国)
- ⑥ 438年 元嘉一五年 倭国王珍を安東將軍となす。(宋書文帝紀)
- ⑦ 443年 元嘉二十年 倭国王済、使いを遣わして奉獻する。倭国王済を復た以て安東將軍・倭国王となす(宋書倭国伝)
- ⑧ 451年 元嘉二八年 倭王倭済を安東將軍から安東大將軍に進める(宋書文帝紀)
// 倭王済に使持節都督倭・新羅・任那・加羅・秦韓・慕韓六国諸軍事を加え、安東將軍は故の如し。并に二十三を軍・郡に除す。

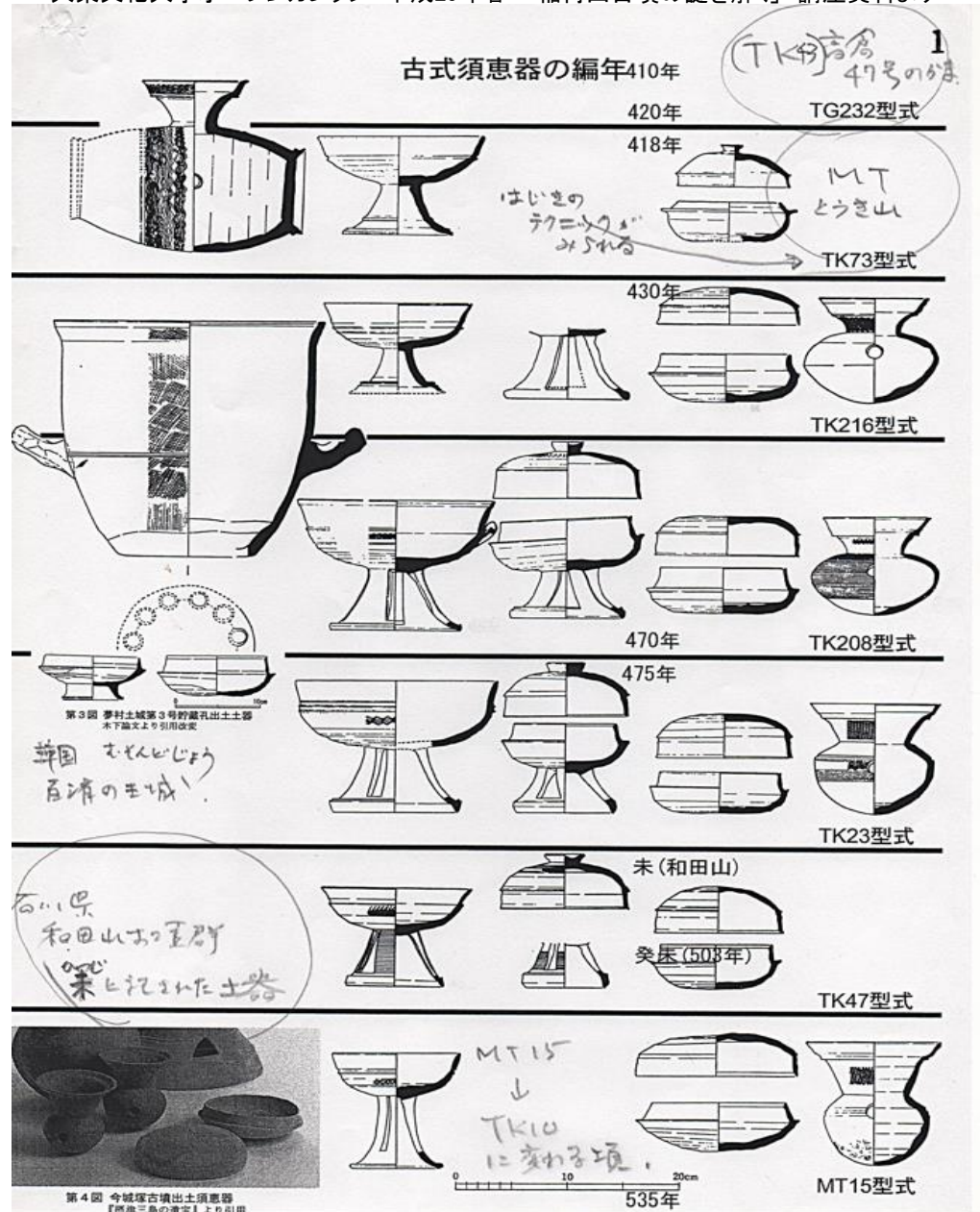
	(宋書倭国伝)
⑨ 不 明	済死す。世子興、使いを遣わして貢獻する。(宋書文帝紀)
⑩ 460年 大明四年	倭王使いを遣わして貢獻する。(宋書孝武帝紀)
⑪ 462年 大明六年	倭王世子興を安東將軍・倭国王とする(宋書倭国伝)
⑫ 不 明	興死んで弟武立ち、自ら使持節都督倭・百濟・新羅・任那・加羅・秦韓・慕韓七国書軍事・安東大將軍・倭国王と称す(宋書倭国伝)
⑬ 477年 昇明元年	倭国使いを遣わして獻物する。(宋書順帝紀)
〃	封国はで始まる上表文を出す。(宋書倭国伝)
⑭ 478年 昇明二年	倭国王武を安東大將軍となす(宋書順帝紀)
〃	上表文を出す。使持節都督倭・新羅・任那・加羅・秦韓・慕韓六国諸軍・安東大將軍・倭王に除す(宋書倭国伝)
⑮ 479年 建元元年	倭王武を安東大將軍から鎮東大將軍となす(南齊書倭国伝)
⑯ 502年 天監元年	倭王武を鎮東大將軍から征東將軍に進める(梁書武帝紀)

以上の点を加味して、倭王の没年と在位年を類推しよう。在位年が短いと、古墳の築造が生前から行われたと捉えても古墳造営が始まる前、あるいは造営直後に死亡したことになり、葬儀の時期に合わせて古墳の規模を縮小したと想定するからである。



最新考古学が解き明かす ヤマト建国の真相 / 瀧音能之 より





さて、以上のことから次のように想定することが出来るかもしれない！

津堂城山古墳の被葬者は河内平野に古墳時代中期の幕開けを主導した応神天皇なのかもしれない？

試案						
参考/大東文化大学オープンカレッジ 平成30年春「百舌鳥・古市古墳群の形成」講座資料より ※仲津山の被葬者は仁徳、津堂城山の被葬者は仁徳あるいは応神か？						
須恵器の編年	倭の五王(没年)	大王	古墳築造時期	実年代	前方後円墳集成編年	
			(古市) 津堂城山		4期	4世紀後半
布留式期 TG232			(古市) 仲津山	410年	5期	4世紀末
TG232			(百舌鳥) 上石津ミサンザイ	415年	5期	
TK73				420年	6期	
TK73	讃(429年頃)	履中	(古市) 菅田御廟山	430年	6期	
TK216				430年	7期	
	珍(442年頃)	反正				
TK216			(百舌鳥) 大仙陵	450年		
TK208				450年		
	済(459年頃)	允恭				
	興(469年以前)	安康	(百舌鳥) 土師ニサンザイ			
TK208				470年	7期	5世紀後半
TK23				470年	8期	5世紀末
			(古市) 岡ミサンザイ			
TK23				490年		
TK47	武(491年頃)	雄略		490年		
TK47				510年	8期	
MT15				510年	9期	
MT15				530年		
TK10						

